

Ⅲ. JAみなみ魚沼「自己改革取組宣言」

これからも、組合員・地域とともに歩み、農業の未来を拓く
「みなみ魚沼」は、総合事業を展開する農業協同組合であり続けます。

- 農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組みます。
- このため、協同組合の原点に立ち、組合員の皆さんとの話し合いを深めます。
- そして「総合事業だからこそ」の強みを活かし、地域にとってなくてはならない組織であり続けます。

協同組合とは、組合員の一人ひとりが力をあわせ、みんなの願いをかなえていく組織です。

JAは、農業者（正組合員）が組織する協同組合です。農業者の営農と生活を支えるため、様々な事業を総合的に展開しています。農業者の所得向上や地域農業の振興を目的に、農産物の販売や、信用事業（JAバンク）、共済事業（JA共済）などの様々な事業を、営農相談やくらしの相談活動を通じて、総合的に結びつけ、地域農業の振興や地域づくりに取り組んでいます。

農業者以外の方で、地域農業の発展や地域づくり、ニッポンの食を応援していただける方は、“地域農業の応援団”として准組合員として加入いただいております。

信用事業や共済事業などを含めた総合事業全体の収支のなかで実施しているからこそ、JAの経営基盤が安定し、営農指導員の配置や多額の農業施設投資が可能です。

いわば、農業者と地域農業の応援団で、JAの総合事業を通じて地域の農業とくらし、みんなの願いをかなえる取り組みを支えあっています。

具体的な取り組みは、昨年策定の合併事業計画書や合併初年度事業実施計画（JAみなみ魚沼自己改革工程表）に基づき実践していきます。

（１）「農業者の所得増大」に向けた取り組み

生産者とJAにはマーケット・イン（市場を意識し、消費者の需要に応じた生産と販売）に基づく戦略的販売拡大が求められています。引き続き、トップセールスをはじめとした積極的営業活動や最新の精米施設をフル活用した「南魚沼ブランド」の商品価値を高める展開を図るとともに、販売促進に繋がるAS I AGAP認証や精米HACCP取得によって安全・安心な管理体制をさらに深化させます。また、所得増大を図るため、JA独自販売体制による南魚沼米の販売拡大を展開するとともに、指導部門と連携した高品質生産を基本とした生産資材の安定供給に努め、スケールメリットを活かした肥料・農薬・農機具・施設等の生産関連コストの低減に取り組みます。

園芸品目では、南魚沼ブランドとしての産地確立による所得増大に取り組みます。また、農畜産物直売所では、生産者の顔が見える特色ある品揃えと季節感を演出したイベントを開催し、魅力ある店舗づくりを展開します。

（２）「農業生産の拡大」に向けた取り組み

新潟米基本戦略を基本に、市場競争力と南魚沼ブランド力の向上、生産者手取り最大化には、継続的に集荷結集に取り組む必要があります。

また、魚沼米憲章の実践と行政等関係機関と一体となった取り組みを通じて、技術対策の徹底を図り、JAは迅速な生育状況・技術情報の提供に努めます。

園芸生産では、新規品目の提案と重点品目の定着化を進め、消費者ニーズに即した生産提案を展開するとともに、生産者の負担軽減を図るため、育苗・集荷等の共同利用施設の取得検討を進めます。

JAみなみ魚沼自己改革工程表

「農業者の所得増大」に向けた取り組み		現状
項目	1 販売品販売高 (農畜産物全品目の合計額) 成果目標：78億円	◎平成30年度実績：73.3億円 19.4億円(しおざわ管内)、53.9億円(魚沼みなみ管内) マーケット・イン(市場を意識し、消費者の需要に応じた生産と販売)が求められている。また、スケールメリットを生かした南魚沼産ブランド(園芸品目含む)の魅力発信と新規取引先や輸出等の新たなマーケットの開拓が課題である。
	2 主食用米(コシヒカリ)の独自販売比率 成果目標：91%	◎平成30年度実績：91% 79%(しおざわ管内)、97%(魚沼みなみ管内) 需要に基づく戦略的な販売拡大と農産物検査法の遵守や品質管理の信頼性確保が求められている。
	3 精米販売量 成果目標：46,000俵	◎平成30年度実績：40,647.5俵 8,843.5俵(しおざわ管内)、31,804俵(魚沼みなみ管内) 産地間競争が激化する中、更なる営業活動強化に加え、最新の精米施設と南魚沼産ブランドの付加価値をフル活用した商品アイテムの開発による「南魚沼産ブランド」の商品価値の追求が求められる。
	4 園芸品目等販売高 (青果物・菌茸類・畜産品・その他) 成果目標：26.6億円	◎平成30年度実績：26.9億円 3.8億円(しおざわ管内)、23.1億円(魚沼みなみ管内) 南魚沼ブランドの確立による適切な販売先の選定、市場動向を把握した販売方法など販売力強化と園芸品目の新規導入支援が求められる。また、集荷対策の強化と新たな品目のブランド化も販売高増加のポイントとなる。
	5 農畜産物直売所 売上高 「四季味わい館」「あぐりばーく八色」 成果目標：5.8億円	◎平成30年度実績：4.7億円 2.9億円(四季味わい館)、1.8億円(あぐりばーく八色) 両直売所の連携による、生産者の顔が見える新鮮で安全・安心な農畜産物の魅力発信と各種イベントを通じた地域の魅力発信を展開する。また、野菜最盛期の売り場面積の確保と冬期間対策の研究・検討をしなければならない。
「農業生産の拡大」に向けた取り組み		現状
項目	1 米集荷量 成果目標：242,000俵	◎平成30年度実績：208,046俵 67,723俵(しおざわ管内)、140,363俵(魚沼みなみ管内) 市場競争力とブランド力の強化、生産者手取り最大化には、JAへの集荷結集に取り組む必要がある。そのためには、需要のある安定したカントリー米、品質管理のできる倉庫、気象変動に左右されない指導等の充実が必要である。
	2 カントリーエレベーター稼働率 成果目標：76%	◎平成30年度実績：68% 64%(しおざわ管内)、70%(魚沼みなみ管内) 安定・高品質なカントリー米は卸業者からの需要がある。また、高品質米の集荷・販売のため、適期収穫による品質安定化に向け、担い手を中心とする大口生産者への利用メリットの発信と利用拡大が求められる。
	3 主食用コシヒカリ1等米比率 (カントリー・個袋合計) 成果目標：95%	◎平成30年度実績：77% 77%(しおざわ管内)、77%(魚沼みなみ管内) 魚沼米憲章の実践と関係機関等と連携した生産指導に取り組み、高品質・良食味な南魚沼米産地を確立する。そのため、地区別土壌分析による基本となる土づくり・使用肥料の提案・密苗移植等の新技術に向け、情報収集・現地試験に取り組む必要がある。
	4 園芸品目作付面積(露地野菜) 成果目標：109ha	◎平成30年度実績：104ha 3.6ha(しおざわ管内)、100.9ha(魚沼みなみ管内) 水稲、園芸の効率的な栽培体系を確立し、農地フル活用を図り重点園芸品目の生産拡大と新規導入促進に向けた生産対策が求められる。また、生産者負担を軽減するため、育苗・集荷等の共同利用施設の取得を検討し、園芸産地拡大に取り組む必要がある。
	5 農畜産物直売所 出荷者数 「四季味わい館」「あぐりばーく八色」 成果目標：500名	◎平成30年度実績：458名 175名(四季味わい館)、283名(あぐりばーく八色) 今後出荷者のリタイアが想定されるが、園芸品目の生産者拡大と生産者手取りの最大化に向け、地域の多様な農業者・新規就農者・定年帰農者等幅広く出荷契約者の確保に取り組む必要がある。

年次別工程		
合併初年度	2年目(令和2年度)	3年目(令和3年度)
◎目標：76億円 21.2億円(しおざわ管内) 54.7億円(魚沼みなみ管内)	◎目標：77億円	◎目標：78億円
◎目標：91% 77%(しおざわ管内) 97%(魚沼みなみ管内)	◎目標：91%	◎目標：91%
◎目標：43,000俵 10,000俵(しおざわ管内) 33,000俵(魚沼みなみ管内)	◎目標：44,500俵	◎目標：46,000俵
◎目標：26.9億円 3.5億円(しおざわ管内) 23.4億円(魚沼みなみ管内)	◎目標：26.5億円	◎目標：26.6億円
◎目標：5.3億円 3.4億円(四季味わい館) 1.9億円(あぐりばーく八色)	◎目標：5.5億円	◎目標：5.8億円

年次別工程		
合併初年度	2年目(令和2年度)	3年目(令和3年度)
◎目標：238,000俵 75,000俵(しおざわ管内) 163,000俵(魚沼みなみ管内)	◎目標：240,000俵	◎目標：242,000俵
◎目標：72% 65%(しおざわ管内) 75%(魚沼みなみ管内)	◎目標：74%	◎目標：76%
◎目標：95% 95%(しおざわ管内) 95%(魚沼みなみ管内)	◎目標：95%	◎目標：95%
◎目標：105ha 2ha(しおざわ管内) 103ha(魚沼みなみ管内)	◎目標：107ha	◎目標：109ha
◎目標：460名 180名(四季味わい館) 280名(あぐりばーく八色)	◎目標：480名	◎目標：500名